

沖縄科学技術大学院大学について



世界最高水準の研究教育機関をめざす沖縄科学技術大学院大学（以下、「大学院大学」という。）の開学に向けて、準備が着々と進んでいます。県では、キャンパスの周辺整備に関する基本計画を策定し、その推進に取り組んでいます。

***大学院大学とは**
学部をもたず、大学院課程のみで構成され専門的研究を中心とする大学のこと。

大学院大学設置の目的と効果

本県に自然科学系の世界最高の研究・教育水準を持つ国際的な大学院大学を設置することにより、
●日本はもとより世界の科学技術の発展に寄与すること
●沖縄をアジア・太平洋地域の先端的頭脳集積地域として発展させ、自立型経済を構築すること
を目的としています。

将来的には、大学院大学と県内企業や研究機関との連携による共同研究を通して、医療・バイオテクノロジー・健康食品などの分野における新たな産業の創出が期待されています。

同様な取り組みの先進事例として

では、シンガポールの「バイオポリス」があります。世界各国から優秀な人材を確保した、最高水準の研究開発拠点であり、このような「バイオテクノロジー」に絞り込んだ研究環境、社会制度の整備が進んでいます。

その結果、シンガポールのバイオテクノロジー産業の生産高はこの五年で三倍にまで成長し、世界的な製薬企業上位八社も同国に進出しています。

シンガポールでは、さらなる産業の発展のために、国を挙げてバ



国際ワークショップ

イオポリスの機能強化に取り組んでいます。
本県においても、大学院大学の設置に伴い、同様な経済効果等が期待されます。

整備の進捗状況

平成十七年九月に、大学院大学の設置準備を行う独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下、「整備機構」という。）が設立されました。

整備機構は、うるま市にある関連施設を当面の拠点とし、大学院大学の知名度向上、科学者の確保やネットワークの形成等を目的に、百名余りのスタッフで先行的に研究事業を進めています。

年に数回、世界各国の著名な科学者を講師に招き、若手研究者や大学院生等への集中講義を行うなど、大学院大学の広報を兼ねた講座も開催されています。

今年三月には、キャンパス予定地（恩納村谷茶地内）の造成工事が着手されました。今年度中には、キャンパス本体の建設も始まります。
平成二十一年度には、キャンパスの一部が完成し、研究活動や国内外の学生を受け入れたセミナー、サマースクールなどが開催される予定です。

世界最高水準の大学院大学を実現するためには、優秀な研究者をいかに確保するかが鍵となっております。世界中から集まる研究者やその家族が、安心して快適に生活できる環境の整備は不可欠です。

県の取り組み

県では、住宅、教育、医療、商業施設、交通ネットワークなど大学周辺の整備に関する基本計画を推進しています。
なかでも、外国人研究者の子どもが、宗教や国籍にとらわれずに教育を受けられるインターナショナルスクールの設置は重要であり、県内の児童・生徒も受け入れ可能とする場合の望ましいあり方等について検討を進めています。



メインキャンパス施設配置計画（恩納村谷茶）

- 1 研究棟1
- 2 研究棟2
- 3 研究棟3
- 4 共通棟
- 5 講堂
- 6 ビレッジゾーン（大学関係者住宅、レストラン、ショップなど）



周辺地区完成イメージ

◆ 沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議 ◆

行政や企業、各種団体の113団体で構成されており、大学院大学の設置を促進・支援しています。毎年、県民や学生を対象とした講演会やフォーラムを開催し、啓発活動に取り組んでいます。
※県民会議では、活動に必要な費用を確保するため、県民の皆さまにご寄附をお願いしています。ご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ：大学院大学設置促進県民会議事務局（県科学技術振興課内）

詳しくは県科学技術振興課ホームページをご覧ください。

お問い合わせ ● 県科学技術振興課 TEL:098-866-2560 FAX:098-866-2799



沖縄県産業・雇用拡大県民運動実施中!



沖縄県産業・雇用拡大県民運動実施中!